

第1回北播磨新地域ビジョン検討委員会 議事録要旨

1 日 時：令和2年7月4日(土)11:30~12:45

2 場 所：小野市うるおい交流館エクラ大会議室

3 出席者：

委員：田中委員、松本委員、三宅委員、奥貫委員、徳岡武義委員、
真鍋委員、河越委員、徳岡和秀委員、降松委員、入江委員、
藤後委員、下岡委員、谷尾委員、内藤委員

県側：上田局長、野村副局長、須貝室長、小林班長

4 内容

(1) 上田局長挨拶

- ・ 本県では平成13年に当時パブリックインボルブメント(行政用語、「参画と協働」という手法を使い、目指すべき将来像を県全体の視点で描く「全県ビジョン」、そして、圏域ごとに住民がその将来像を描いた「地域ビジョン」を策定し取り組みを進めてきた。当時、この圏域は東播磨県民局であったが、そこから分離し、平成13年以降「北播磨地域ビジョン」として取り組まれてきた。その後、平成23年に時代の変化を踏まえ「北播磨地域ビジョン」の見直しを行い、2040年を展望しつつ2020年を想定した「北播磨地域ビジョン2020」を策定した。
- ・ このビジョンの取り組みについては、改定から10年近く経過し、その間いろいろな大きな変化がありこの地域も大きく変わってきた。それを踏まえ現行ビジョンに替わる新しいビジョンを策定することとなった。このビジョンは、いわゆる総合計画というような、達成すべき目標をあらかじめ設定しそのために実施すべき施策や事業の総量を示す、いわゆる行政主導型ではない。県民、企業、団体、NPO、行政などの多様な主体が進むべき道を共有できる望ましい社会の姿を示す「県民誰ものビジョン」となる。
- ・ このビジョンの策定にあたっては、併せて設置をする地域デザイン会議からの提言も参考にしつつ、この委員会において検討いただいた上、素案を作成する。また、地域ビジョン委員をはじめ、いろいろな意見交換の場を設定して、そこからたくさんの意見をいただき地域の方々の意見も反映しながら、令和4年2月頃を目途に策定したいと考えている。
- ・ 委員をはじめ出席の皆様には、この将来・未来を描いていくという新しい地域ビジョンの策定に今後も引き続きご協力いただきたい。この委員会終了後に、地域ビジョン委員活動のキックオフとなる機会である北播磨地域ビジョン第1回全体会議を予定している。よろしくお願ひしたい。

(2) 委員長 副委員長の選出

委員長を選出

委員長 兵庫教育大学大学院教授 田中雅和委員 就任

委員長が内藤委員を副委員長に指名

副委員長 第9期北播磨地域ビジョン委員長 内藤忠委員 就任

(3) 事務局から資料説明【資料1】【資料2】

(省略)

[委員長]

- ・ この委員会の開催は、概ね1、2か月の間に1回程度、その方法は、対面または書面ということである。資料2のスケジュールの中にそれが表記されているが、回数が結構多い。これがどのような委員会の形式になるのか、改めて何かの方法で、周知していただくのは可能か。

[事務局]

- ・ あくまでも予定として入れている。どのような形になるかは、進めながらお知らせしたい。今は大体のイメージとしてこのような回数を予定しているということでご理解いただきたい。

[委員長]

- ・ 皆さん心づもりをお願いしたい。

[副委員長]

- ・ 展望年次が30年後の1世代後ということで、2050年になっている。県全体も同じように進められていると思うが、地域になればなるほど30年というのは長すぎて、30年後の展望というのは描きにくい。中間年を想定する等の工夫があると思う。戦後から見てきても、大きな社会変化が起こっている。30年後というと一般県民もわかりにくい。何年後を目指してのアンケートにするかも検討が必要。

(4) 事務局からアンケートについて説明【資料3】

(省略)

[委員]

- ・ ビジョンアンケートなので、最初に「残していきたいこと」「なくなってほしくないこと」から入るよりも、最初は、2番の「どんな地域になったら良いと思いますか」の方が相応しい気がする。答え易さから、現状を考えてから将来像へという方向の案を考えたのかもしれないが、新しい何かを創る、将来像を見つけていくということを考えると、この順番でいいのか。4番の「課題を解決するために」という設問は、先ほど「前向きに捉えて」と話があったが、その方向とは逆と感じる。3番の「感じる課題について」

という設問を受けて4番となるので、どちらかというとも後ろ向きなアンケートになっている印象がある。この点について再考願いたい。

[事務局]

- ・ 意見があれば7月10日までに事務局までメールでお願いしたい。その意見を取りまとめてもう一度協議し、7月末には発送したいと考えている。

[委員長]

- ・ 今の意見を参考に、アンケートの質問内容等についても更に検討し進めていただきたい。私は、質問内容よりも方法が少し気になる。アンケートはどこに発送するのか。

[事務局]

- ・ 先ずは高校等へアンケート用紙を発送する。スマホ等で回答できる入力フォームサイトのQRコードを印字することで、アンケート用紙でもスマホ等からでも回答できるように考えている。

[委員長]

- ・ 若い人は、記述を嫌がる傾向にあるので、スマホでも答えられるようにするのは良い。また、広い範囲でアンケート募集をするのであれば、公共施設のような所に紙と回収ケースを置いて「自由にアンケートに教えてください」というのも1つの方法。更にできるだけ沢山の意見を収集したいのであれば、県民局等のHPで働きかける方法もある。多くの意見を聴取するという方向であれば、収集方法も含めて検討いただきたい。

[委員]

- ・ このアンケートを外国人にも問うのであれば、多言語化が必要と考える。また内容もかなり漠然としているので外国人にはわかりにくいと思う。在留資格とか言語等を含めて外国人向けのものを作っていただくことで広く声が聞ける。外国人にも児童、生徒、学生はいる。今後その子たちが北播磨にとどまることも考え含めてお願いしたい。

[事務局]

- ・ その際は、ご相談したい。

[委員]

- ・ 資料2でアンケート①とアンケート②があるが、これは対象者が違うということだと思うが、同じアンケートで対応するということか。

[事務局]

- ・ 未定ではあるが、対象によって内容を少し変えることも考えている。

[委員]

- ・ 高校生からアンケートを収集すると自由記述は非常に発散する。沢山の意見が出てくるのが予想されバラバラになって收拾がつかなくなる。1つ収束させるような項目を入れておかないと纏めにくい。例えば、前段の説明の4行目に地域コミュニティとか、いろんな項目が「幅広い視点で」と書いてあるが「若い人たちはどういうところに将来期待を寄せているのか」等の収束させるような項目を入れたらどうか。

(5) 事務局から資料説明【資料4】

(省略)

[委員長]

- ・ 今の取り組みについて何かご質問、ご意見は。

[委員]

- ・ 私共も自治協議会を立ち上げて、アンケートを住民に配っているが、一番大事なのは回収率だ。答えやすいアンケートにしないといけない。ここで描くビジョンは実現しないといけないが、副委員長が言われたように30年というのは非常に長い。私共も2年かけてまちづくり計画や、行動計画をたてた。行動計画というのは5年間に決めて、この5年に何をやるということをしっかり決めた。古民家の改修、協議会を立ち上げる受け皿づくり等。アンケートとして大事なのは「今、皆が困っていること」。そこから入らないと住民に将来のビジョンを書きなさいと言ってもなかなか答えが返ってこない。困っていることから、ビジョン、夢を描いていくという形にした方がいい。ここを押さえていかないと、なかなか30年だけでは進まない。アンケートは相手が答えやすく、回収率を上げることを考えながら質問項目を作っていただきたい。私共も今、それを考えながらやっている。

[事務局]

- ・ 一旦こちらで検討し、改めてお知らせする。

[委員長]

- ・ 意見交換、自由な発言をもとめたい。

[委員]

- ・ アンケートの回収率は、どれだけの回収数を設定するかということになる。北播磨26～27万人の人口で、どれぐらいの回収数、全住民の何%ぐらいの方の意見を集めて、アンケートから課題の抽出等をされるのかお伺いしたい。

[事務局]

- ・ 前回改訂時10年前の回収率は50%に達しておらず配付数は900だった。

[委員]

- ・ 回収実数をお聞きしたい。どれぐらいの数を回収したいと目標を持っているのか。全数調査ではないので、目標回答数によって、設置の数、調査方法が留め置きなどと、いろんな方法があるかと思う。

[事務局]

- ・ 具体的には数を押さえていないので整理をしてお答えしたい。

[上田局長]

- ・ アンケートの方法については、ネットであれば、例えば1000人を目標にしていたら1000人になるまでアンケートを続けて、目標になった時点で切るというような形式のアンケートもある。今回はネットと紙を併用するので、どのぐらいの人数であれば具体的なものが得られるのかについても先生方にご相談させていただきながらアンケートをつくりたい。県の統計課などとも調整したいと思うので、よろしくお願ひしたい。

[委員長]

- ・ アンケートを頼む、送る時には、どういう対象でどういうことを聞きたくて送るかという選別が必要。一方で不特定多数、少しでも関心のある人が応募することができるような場を設けることも必要。例えば、HPやネット内で可能だとは思ふ。回収方法の選択や、何を期待してどこに願ひするかということを含めて、アンケートをとる方法と内容をもう少し詰めていった方がいいのかなという感じがする。一般には、こういうアンケートが行われていること自体も知らないので、アクセスのしようがない人の方が圧倒的に多い。例えば「今こういうアンケートをこういう目的で行っている」ということを広く知らしめるような方法を取り、興味があった人は自分から回答できるというやり方も検討する必要があるのではないか。

[委員]

- ・ 高校生の意見も反映をすることになれば、できる限り協力したい。皆様方

は各地域で活躍されており、今の地域を活性化し次世代に繋げていきたいと非常に尽力されている。30年後というよりは、今をどのように地域をよくするかということが、このビジョンを語られるうえで中心になりがちだと思われる。今の高校生が30年後は40代後半になり、次の世代を育てていくことになるが、そこにどう関わっていくのか、今の高校生が30年後の北播磨でどう生きていくのかということに視点をあてて考えていただけたら大変ありがたい。

[委員長]

- ・ 30年というのは積み重ねていった上での30年なので、5年毎とか10年毎の意識というのは常に重要である。

[副委員長]

- ・ 高校生に価値観を尋ねるということも大事ではあるが、その価値観が北播磨に対して良いものかどうかということも問題になる。神戸や大阪、東京のような、都会に住むのがいいと思っている高校生が「そういう都会的なものがない」というふうに田舎を見ていたら、ネガティブな意見になってしまう。

[委員]

- ・ せっかくの機会なので、外国人がどんな風を感じているかということをお伝えしたい。外国人に対応する中で外国人から言われて胸に刺さった言葉がある。それは「私たちは無能ではありません。無知なだけです。すなわち日本の文化、習慣、制度を知らないだけです。もちろん日本語も含めて。私たちを上手に使ってください」という言葉。意外と日本人は外国人住民に対して無関心という感じがする。この二つの「無」というのが非常に大きな意味を持っている、キーワードだと私は考える。このアンケートにしても他のことにしても、日本人中心の考えであって、これから増えていく外国人のことをもう少し丁寧に扱う、そして親身に接するということが大事である。例えば子育てにしても、資料の項目にある子どもの教育を重視するというアクションは大切であるが、もっと踏み込んで、外国人児童生徒の日本語能力向上を視野に入れることが望まれる。例えば、日本語ができないために中学校で来た子どもたちの日本語がごっそり抜けた状態で中学校へ上がる、そのやるせなさ。もし自分が海外に行っても分からない言語の中に放り込まれた場合、その学校に通学するだけでも、非常な勇気である。そのような気持ちを持ちながら生きていかなければならない。30年後にはもっともっとたくさんの外国人の子どもたちが、そういう状況に追い込まれるかもしれない。技能実習生は短期でとどまる人もいたり、帰る人もいたりするが、家族帯同の就労者や国際結婚も確実に増えていく

と考えられる。その辺のことを私はここでお話していきたい。

[上田局長]

- ・ 外国人の方に対するアンケートについては、人数が増えていることもあるので、全く同じアンケートでいいのか検討する。

[委員]

- ・ 新ビジョン検討委員会を立ち上げて将来のビジョンを作っていくのに、それを受ける側の若い人たちは非常に仕事が忙しいし、こういうことに無関心だろうなと思っていた。しかし、実際に若い人だけの委員会を過去に立ち上げ運営した時は、若者から非常に活発な意見が出た。ツイッター等を使いながら実際に会場に集まらずとも皆でやり取りしながら意見交換ができた。
- ・ 今、団塊の世代を含めて高齢化しており、高齢者の問題が非常に多いのに、逆に年配者の組織参加者は非常に少ない。「声をかけてくれたら行くけどなあ」という程度である。
- ・ 組織というのは、意見をまとめたものを誰が実現するのか、ということ念頭に置きながら運営し、それを生きがいとかやりがいと思う人をスタッフにして、一緒に活動してくれる人をどれだけ増やせるかというのが大事だが、これが非常に難しい。
- ・ 若い人などは関心がないだろうと思うことでも、私の地区では若い方の参加率が多い。短い時間でも参加者が非常に多くなった。
- ・ ところが老人会に「参加してよ」と言っても「まあ、お前らがやりよるのを見とこか」程度のこと。高齢者に関係することが非常に多いのに当事者たちは他人任せになっていることが一番の問題だ。

[委員長]

- ・ それぞれの立場で、小中高生の若い世代、働き世代の若い世代、それからある程度高齢になった方々、外国人の参加、それらを総合して考えて「北播磨地域」ということでの「ビジョン」と考えると、今のような視点をどういう風に盛り込むかということはとても大事なことだ。
- ・ 今までにできていたかどうかということも振り返らなければいけない。次の「新ビジョン」をどう考えるかというときに、今のような視点というのを県民局の方でも県全体の方でも考えておくということが重要。
- ・ 私が今まで関わってきて、ビジョン委員会とはどういうものかと考えたときに、具体的に「実現する」ということも重要だが、実現するためにどういう取り組みがあるかを考えるために、「ビジョン」という県民の意見を聞きたいということがかなり中心になっているような気がする。そういう理解でいいのか。
- ・ できるかできないかという議論もさることながら、希望や不満を、ある程

度言いつばなしでもいいので、言ってもらうことが、このビジョンを策定する参考資料になるのではないか。そういうことを考えながら進めていきたい。

- 先ほど述べたように、高校生や若い世代がいろいろ変わるように、一括りで外国人の方を括れないなという気がする。2、3年前の夢会議で外国人との交流の方法を考えるテーマにしようと計画したが、実現しなかった。むしろ外国人が関係するコミュニティーの方が「そういうところに引っ張り出すのは勘弁して」というようなことであった。
- その一方で、外国から来ている就学児童たちはもっと係わりたいと思っている。一括りではなくて、いろいろな層の外国の方が、地域の中でどういう風に希望を持っているかを聞きたいと思う。外国人が勤めている会社関係の方にもいろいろな目配りをしながら、取りまとめするのはかなり慎重でなければいけない。しかし、それらも地域のビジョンとして注視しながら地域をどういう風に活性化するかが重要な点である。去年一昨年までの経験を踏まえて申し上げた。この辺で司会をお返ししたい。

[事務局]

- 熱心なご意見をたくさんいただき感謝申し上げます。今後も何かお気づきのことがあれば私どもの方にご教示いただきたい。
- これを持って新ビジョン検討委員会の方を閉会する。このあと1時半から市民交流ホールで開催される全体会においてビジョン委員会の委員長、副委員長が選任される。今後はこの検討委員会にビジョン委員会の委員長、副委員長も参加されることになるのでご承知いただきたい。